

システム開発トラブル駆け込み寺（第1回） 2017. 4. 13

本連載では、システム開発の具体的なトラブルを紹介しながら、失敗の原因と対策を明らかにする。今回は、システム開発トラブルの種類と、失敗の要因を説明する。特に「業務知識の不足」「パッケージの認識不足」は大失敗につながる。

開発したシステムにバグが頻発する、利用部門が新システム受け入れない、開発費が当初予算を大幅に超過した、納期遅れを繰り返した——。業務システム開発の現場では、失敗やトラブルが後を絶たない。

深刻なケースでは、システムを発注したユーザー企業と、受注したITベンダーの間で訴訟に発展することもある。ひとたび訴訟になれば、双方が膨大なリソースを無駄に消費する。そこに勝者はいない。

どうすれば、システム開発のトラブルや失敗を未然に防ぐことができるのか。本連載では、システム開発の典型的なトラブル事例をひもときながら、失敗の原因と回避策を解説する。

第1回は当協会副会長の細川泰秀が、システム開発トラブルの種類と、トラブルが発生する主な理由について説明する。

- 現場で何が起きているのか
- システム開発を失敗させる5大要因
 - ・業務知識/業務管理知識の不足
 - ・パッケージ活用の認識不足
 - ・発注者・受注者のコミュニケーション能力不足
 - ・プロジェクト管理能力不足
 - ・技術力不足
- 「現状のまま」は最大のリスク
- 業務管理知識なしには作れない
- パッケージはアドオンが失敗の種に
- フィットギャップ分析の罠
- アドオン形態にも注意

詳しくは、日経コンピュータ誌 2017. 4. 13号

または、<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/ncd/17/040600014/>
をご参照ください。